

台東区立中央図書館企画展「関東大震災と復興」を終えて

平野 恵

1. 関東大震災を展示するにあたって

報告者は、本年、2023年6月から9月まで台東区立中央図書館において「関東大震災と復興—台東区の大正・昭和—」を担当した。関東大震災100年を迎えたこともあり、首都圏の自治体では講演会・展覧会イベントも多数開催されているなか、比較的早い展示開催期間であった。こうした意味では、他館がどのような資料を展示し、展示ストーリーであるかを知る間もなく開催したため、同じような展示品の列挙になる恐れは常に抱いていた。しかし、勤務する台東区の図書館では初めての内容であり、資料の多さは予測しており、かつ以下に掲げた展示経験等があったため、専門外の近代史ではあるが展示実施に踏み切った。

報告者は、1993年、台東区文化財記録映画「“小僧”がいた頃」の制作現場に立ち会い、2003年2月に文京区立博物館である文京ふるさと歴史館において、「移りゆくまちの風景—関東大震災後の文京—」展の副担当として関東大震災と復興関連資料に触れたことがある。また関東大震災を契機に大宮に新天地を求めた、さいたま市盆栽町の歴史について、2010年に「錦秋 盆栽村の美と歴史」を、2011年に「爽秋 盆栽村の美と歴史2」をさいたま市大宮盆栽美術館において展示した。

こうした経験から、近代史は専門外ではあるが、関東大震災を経験した自治体に務めた職員として、なぜ展示をするか、展示をしなければならないのか、次世代へ引き継ぐべきものは何なのか、という視点で、展示及びイベントの内容を振り返っていく。

2. 主な展示品

1) 石版画

展示資料として、図書館では、チラシ・ポスターに使用した「(帝都大震災画報 其五) 新吉原仲之町通焼火大旋風之実況」を含め3点の石版画を所蔵している。これに加えて、台東区立博物館である下町風俗資料館から2点の石版画の実物およびパネル展示として5点の石版画の画像を借用して展示した。本来なら、下町風俗資料館でも展示すべきところ、リニューアル中であるため、借用には快く対応していただいた。

2) 地図

当館では、近年貴重資料を高精細画像として保存し、データベース化したものをホームページに挙げて公開している。和本・浮世絵等近世資料はこのところ購入していたが、地図に関

しては、図書館所蔵品を中心に整理・公開を進めてきた。ところが、館蔵品の地図の中に関東大震災時や復興時における精細なものがないため、下町風俗資料館所蔵「帝都大震災系統地図」を借用、また新規に「東京日々新聞附録 復興完成記念東京市街地図」を購入した。

3) 写真

図書館であるため、写真を多用した図書・雑誌類は数多く所蔵している。しかしながら、ビジュアルでわかりやすく、かつ説明がしやすい石版画・地図に比べると、写真はインパクトが強いが、ある一コマしか写さないため、石版画より情報量が劣ると考え、展示室内のケースの大きさもあり、雑誌・図書類は最小限に抑えた。ただし、地域史料として重要と思われた上野松坂屋で開催された復興展「大東京展覧会」の様態を写した写真は、デジタルフォトフレームも併用して紹介した。

意識して使用しなかった写真に、浅草十二階（凌雲閣）の火災直後のものがある。この画像はどこでも使われ、震災の象徴のように扱われることが多いが、例えば石版画のコマ絵で描かれていることもあり、省略した。

3. 展示関連イベント「トーク・イベント『台東区と関東大震災』」の開催

文化財記録映画「小僧のいた頃」の上映（27分）を上映し、報告者30分、下町風俗資料館学芸員・近藤剛司氏が30分解説をした。

このイベントの目的は、震災やその後の復興期を経験した人物がいなくなり、復興期の建築物も徐々に町から姿を消していなくなっている現代だからこそ、30年前の作品であるが、町の風景と人びとの証言を記録した映画の上映を行い、紙媒体の資料では表現できない震災の記録を伝えようとした。

なお本報告の内容は、専門図書館協議会編・発行『専門図書館』317号（特集「関東大震災から100年」(仮)）（2024年6月末刊行予定）に掲載予定。